

税金で行う快適なまちづくり

尾道市立向東中学校2年 津森 紗芽

税金にはいろいろな種類がある。例えば、消費税、所得税、住民税、法人税、たばこ税、酒税などだ。私たち中学生が一番身近な関係にある税金は消費税だ。だが、最近は物価高が続いている、ニュースでよく減税という言葉を目にする。正直、税金と聞いても消費税くらいしか払ったことがないし、よく分かっていないところだ。

私は去年宮島に行く機会があった。その時もフェリーの切符に税金がかかっていて、二百円だったのが三百円になり、以前より高くなっていた。その税金は「訪問税」という訪問者を対象に課税される税金だ。私は、今までかかっていなかった訪問税は何のために必要なのか気になって調べてみた。

宮島は、世界遺産の厳島神社があり、コロナ禍からの回復と同時に多くの観光客が訪れ、島の対岸の市街地では交通渋滞などの日常生活にも支障が生じ始めている。こうしたオーバーツーリズムに備えたり、自治体の税収や行政サービスを行う財源の不足による運営の赤字などを防いだりするために「宮島訪問税」を導入した。オーバーツーリズムとは、特定観光地に観光客が過度に集中することで、地域住民の生活や環境に悪影響を及ぼす現象のことだ。この「宮島訪問税」は、負担されるのが百円ということもあり、観光客数の移行にも悪影響は出でていない。逆に、訪問者の受入環境の整備や、文化財や歴史的建造物の保存、自然環境に負荷のかからない観光などにも役立っている。安定的な財源を確保した上で、持続可能なまちづくりを進めることができていて、良い影響の方が大きいようだ。また和歌山県でも高野山で「入山税」を導入するため検討を進めている例もある。年間百五十万人の観光客に対応するためトイレや駐車場などの維持管理費をまかなうためだ。このように観光地運営の課題を解決するための「宮島訪問税」の取り組みが、他県の持続可能な観光運営のお手本になることも期待されている。

私たちの住んでいる尾道も例外ではなく、しまなみ海道を含めた観光地である。そのため、外国人観光客や自転車でサイクリングをする人たちも多くいる。そういうところで、自転車も車も通りやすいような道路の整備やトイレの設置、外国人でも読める看板の設置、景観を守るための取り組みなど、住む人や観光に来れる人が心地良く快適に過ごせるために尾道にも観光税を導入するのも良いのではないかと考える。

この税金の作文を通して、知らなかつたことをたくさん学ぶことができたし、税金のことを知っていく中で、税金に対する印象も大きく変わった。自分たちの暮らしにも身近であることが分かり、私たちが生活しやすいまちづくりのためにも必要不可欠であるといえる。